

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490800396	事業の開始年月日	平成29年12月1日
		指定年月日	平成29年12月1日
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホームソラスト西柴		
所在地	(236-0017) 神奈川県横浜市金沢区西柴 2-28-8		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	6名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和3年9月28日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

西柴は入居者様変わらず、お元気です。長い方から16年、14年、8年、5年（2人）、4年と続きます。皆さんADLが落ちないことが自慢です。それを支えるスタッフも看護資格のある方が2人、介護福祉士が5人とスキルも高く、また医療連携も良くとれていると自負しています。そのため、今年はいち早く入居者様全員にコロナワクチンを安全に接種していただくことができました。地域のコミュニティ活動はコロナの影響で活発にはできませんでしたが、散歩の際にあいさつを交わす等、ささやかでも交流は継続しています。ご近所の方も優しく、庭のみかんやカボスをくださったり、こちらでもホームでワクチン接種可能な方を募ったりと双方良好な関係を築いています。建物は古いですが、それを感じさせない贅沢な作りです。高齢者の方に快適に過ごしてほしいとの創設者の思いが、今も生きています。また、各居室のエアコンもクリーニングし、過ごしやすい生活支援に努めています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年12月13日	評価機関 評価決定日	令和4年3月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、京浜急行線「金沢文庫」駅からバスで約4分、バス停「西柴四丁目」で下車し、徒歩6分ほどの閑静な住宅地の中にあります。高台に位置し、建物の東側はみかんなどの果樹園や畑で、東京湾を望み眺望に優れた環境です。運営法人は医療・介護・保育業を広く展開している「株式会社ソラスト」です。

<優れている点>

事業所理念「お互いを認め合って、彩りある生活を送りましょう」を目標として、出来るだけ自立して過ごせるように入居者支援を心がけています。介護福祉士等の資格を取得した長く働いている職員が多く、家庭的で明るく楽しいホーム創りを目指しています。入居期間が長く、且つ自立して生活している入居者が多いことも特徴です。99歳を筆頭に入居者全員が自分自身で箸で普通食を食べています。天窓のある、白を基調とした壁の明るい室内のもと、床暖房を完備したフローで滑り止めのついた靴下で過ごし、日常活動動作（ADL）を保ち生活しています。

<工夫点>

リビングの壁には「西柴オールスターズ」と名付けた入居者の大小様々な笑顔の写真がデザインされて、一人15枚ほど飾られています。クリスマスツリーや飾り付けなどが季節を醸し出し、華やかな雰囲気を演出しています。毎月それぞれの入居者ごとに生活の様子や連絡事項を記入した「ご報告」を、暮らしの様子を伝える写真や漫画を添えて家族に送付して支援の様子を伝えています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームソラスト西柴
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3. 利用者の1/3くらいの
		4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまにある
		4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
	○	3. たまに
		4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
	○	2, 少しずつ増えている
		3. あまり増えていない
		4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を額に掲げています。日々の業務の中、スタッフ皆で確認し、実践に努めています。	法人ソラストの理念と共に、事業所独自の理念を管理者と職員が話し合いつくっています。「お互いを認め合って、彩りのある生活を送りましょう」を理念としています。毎月の会議で「理念」を再認識し、行動指針として支援に活かし実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で、外出もままならない中、散歩が唯一の息抜きです。行き交う方々とあいさつを交わしています。	自治会に参加し地域の一員として交流してきましたが、コロナ禍で諸行事が中止になっています。これまでは文化祭などのイベントや地域住民交流の場「さくら茶屋にししば」を楽しんできました。地元中学校の職業体験授業にも協力し、毎年1、2年生が来訪し実習してきました。	事業所は高齢化が進む戸建て住宅地域に立地しています。専門家の立場で、住民に対し自治会や地域コミュニティー「さくら茶屋」活動と連携した認知症啓蒙活動の実施が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年はコロナの影響で中学生の職業体験の受け入れが中止になりましたが、次年度は現段階では行う予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナの影響で、顔を合わせての会議は開催できませんでしたが、書面会議で皆さまからの意見を募り、報告書に反映しています。スタッフにも目を通してもらい、ご家族の想いを共有しています。	コロナ禍の今は書面会議で隔月に実施しています。家族や後見人、近隣協力者、自治会福寿会会長、地域包括支援センター職員、民生・児童委員などの参加協力を得ています。報告書では事業所からの活動内容の報告だけでなく、参加者からの意見も掲載し情報交換をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	今年も介護相談員の来訪も自粛となりました。生活支援課の方から、定期的に電話連絡を頂いております。	区の生活支援課とは生活保護受給者に関して、事業所の運営については高齢・障害支援課と連携しています。今年度の感染症対策研修会の内容は新型コロナウイルス対策で、管理者が受講し「スタッフミーティング」で職員に周知し話し合い、取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフミーティングにて、定期的に身体拘束会議を開き、身体拘束等の対象となる具体的な行為の周知を積極的に行っています。今後も引き続き身体拘束会議を開く予定です。	マニュアルを完備し「身体拘束適正化委員会」を年4回実施しています。職員は法人の研修システム「e-スクール」で学び理解を深めています。スタッフミーティングでは新聞記事等から具体的な事例を話し合い介護に活かしています。重要事項説明書で身体拘束をやむを得ず行う場合の要件を明確に説明しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	独自に作成した虐待の芽チェックシートの実施、管理者による監視カメラのチェックをし、虐待の防止に努めています。	「身体拘束適正化委員会」と同時に「虐待防止委員会」を開催しています。「虐待の芽チェックシート」で行動を振り返り、虐待防止に努めています。入居者への声掛けにも十分配慮しています。管理者が不適切な発言に気づいた時は、職員と1対1で指導しています。	家族が了解した入居者の居室に監視カメラが設置されています。映像は管理者だけが管理するID・パスワードで守られていますが、今後ともプライバシーに配慮した慎重な運用が期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者にお一人、成年後見人制度を利用されている方がおり、面会や電話等で月1回の訪問を受けています。その際、意見交換等をして、入居者の権利を害していないかチェックしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	今年度は新しい入居者、退去される方はいませんでした。コロナ禍のため、自粛要請の通知を出させて頂き、電話等で説明を行いました。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍で、電話での対応に限りますが、ご家族と意見交換を行っています。居室にカメラを設置する案に対して、ご家族にアンケートを実施しました。	コロナ禍の今は家族の要望や意見を聞く機会が電話主体となっています。毎月それぞれの入居者ごとに、生活の様子や連絡事項を記入した「ご報告」を写真や漫画を添えて家族に送付して支援の様子を伝えています。安全のため、家族に賛同を得た入居者の部屋にはカメラを設置しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や、管理者は、日々の業務の中で、職員の意見・要望を聞くように努めています。またスタッフミーティングや、毎日の申し送りに意見交換をしています。	管理者は日常の会話を通して職員の意見や提案を聞いています。毎月の「スタッフミーティング」では大半の職員が参加できるよう勤務シフトを配慮して実施しています。職員の意見は昼食時の席替えなど、入居者支援に迅速に活かされています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は、ソラストの福利厚生の一部として毎月「サンクスポイント」「入社バースディ」「おやつ」等の申請を欠かさず行っています。	管理者は職員個々の事情を勘案して、月間の勤務シフトを作成しています。学童を持つ職員には、土日祝日を休みに充てたり、突然の休みの対応などにも配慮して働きやすい職場環境作りに努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	今年もコロナ禍のため、顔を合わせて研修ができない状態ですが、パソコンやスマホの「ソラスクール」でいつでも研修ができます。新入社員は基礎的知識が欠かせません。	法人は職員の育成に尽力し、研修やセミナーのほか、パソコンやスマホでいつでも学習できるeスクールを導入しています。階層別・業務別に多岐にわたる内容が用意されています。事業所は長く働き、介護福祉士等の資格を取得した職員が多くいます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	今年「金沢区グループホーム連絡会」の会議は書面でも行えませんでした。電話等で情報交換を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	お一人に限り、見学に応じています。家族の要望、本人の希望をお聞きします。職員と一緒に情報を共有し、いつでも、どのような事でも聞ける、安心できる雰囲気を作るよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居に至るまでの生活、状況をお聞きし、家族の想いを受け止め、共有し、安心を促すよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居に至るまでの生活、状況をお聞きし、本人の心の安定を第一とし、サービスとコミュニケーションに力を入れて参ります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	朝はハンディ掃除機でお掃除から始まり、お茶煎れや下膳をお願いしています。声掛けすればできる行為を奪わないよう、気をつけながら行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	今年は顔を見ての会議がなく、面会もできませんでしたが、書面や電話を通じて情報交換をしています。お誕生日や敬老の日等に、ご家族からの贈り物があり、本人に渡しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年も、外出もままならず、歯がゆい思いをしています。馴染みの方には、電話や書面でなるべく状況をお伝えしています。	入居時の聞き取りや人生の歩みの履歴情報等により馴染みの人・もの・場所などを把握しています。散歩時などの会話で希望や要望などを把握する機会を設けています。コロナ終息後は、商店街や墓参り、花見などを車で行く予定をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	少人数のホームなので、利用者同士の関係にはとても気を使います。ウマが合わない同士には、食事の際にリビングに降りるタイミングをずらす工夫をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した方との連絡は、守秘義務の観点から、こちらからは行っていません。相談があれば、できる限り支援いたします。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとり、個性の違いを把握し、尊敬し、自由な生活を第一に考え、支援しています。	入居前に得られた情報と入居後の生活行動や何気ない会話で把握できた情報を総合的に理解しながら、入居者の気持ちに寄り添うように努力しています。新たな思いや意向を把握した場合は、申し送りノートに記録して職員全員が回覧し情報の共有に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の状況を参考に、本人を把握し、入居したことによって心の変化に着目し、新しい生活に馴染んでいただけるよう、声掛けしていきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝は自室の掃除から始まり、できることはお願いしています。血圧も自分で記録していただいたり、何より尿意を感じたら、いつでも、何回でもご自身で通えることを大事にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人が安心して生活いただけるよう、ご家族の力をお借りしています。電話等で意見交換を行い、ケアマネージャーや、訪問看護師の意見を介護計画に盛り込んでいます。	ケアプランは、6ヶ月ごとに作成しています。毎月のスタッフミーティングやモニタリングには、訪問看護師も参加して入居者の状況を確認しています。介護計画は、入居者、家族の意向を反映させながら作成し、直接または郵送して内容説明を行い、同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフミーティングをなるべく月1回、看護師の訪問するときに行います。集まりは良く、入居者の状況を話し合い、議事録に興し、皆で実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本年も、コロナ禍でご家族を始め、他からの来訪は控えていただいています。また外出も近所の散歩のみでまななりません。収束したら、ボランティアの方々を積極的に迎えたいと考えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今年は無理ですが、コロナが落ち着いたら地域での催し物に積極的に参加していきたいと思っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	隔週に訪問診療があります。また、毎週、訪問看護師さんが訪れ、かかりつけ医との連携もとれています。	かかりつけ医は2週間に1回来訪、24時間オンコールです。歯科医は週1回、さらに訪問看護師も週1回来訪し、医療体制の充実を図っています。診察結果は、医療連携業務日誌に記載し、医療情報データとともに保存して情報を共有化しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週訪れる訪問看護師さんに、職員は情報提供できています。気軽に話し合える雰囲気もでき、指示が通りやすい良好な関係を築けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、管理者は詳しい情報を病院関係者やご家族と共有します。短期の入院で済むように、その旨を病院へ伝え、病院を訪れ情報を頻繁に得ることに努めます。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や緊急時、延命処置を行うか否か、対応を本人やご家族に確認し、書面にしたためました。簡潔にした表を張り出し、職員に周知しています。	重要事項の説明に合わせて「重度化した場合の対応に関する指針」について説明し同意を得ています。看取りの実績はまだありません。医師と相談して看取りの指針も整備しています。看取りの経験のある職員も在職しているため、今後は必要な研修の充実も予定しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	玄関先にAEDを設置して、ご近所の方が活用できるようにしています。スタッフミーティング時に、感染症対策のシュミレーションを行いました。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	今年もコロナ禍で、避難訓練もミーティング上で確認しました。地域の方とも、回覧板や様々な交流を通して協力体制を築いています。	避難訓練は年2回で、具体的な災害を想定して入居者、職員が参加した内容で計画しています。近隣には事前に周知をし、理解と支援を得ています。災害備蓄品は食料、水など3日分を保存し、品名、数量、消費期限を記載した目録を事務室に張り出して明示しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとり、異なる個性をお持ちです。時にはぶつかることもあります。それぞれの言い分を受け止め、エスカレートしないよう、制止したり、見守りしたり、適度に声掛けをしています。	入居者一人ひとりの性格や日常行動を理解し把握しながら、出来るだけ自立して過ごせるよう、入居者の意にそぐわない無理強いなどがないように配慮しています。職員に不適切な言動があった場合は、管理者は職員と向き合いよく話し合っ改善に繋げています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の生活習慣を大切にしています。職員は1対1の散歩時や、お部屋でお話をよく聞き、思いを受け止めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事に時間がかかる方は、急かさず、また入浴もゆっくり行って頂いています。日中は自室で過ごしたい方、自由に居られるよう、雰囲気を作っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節毎に衣類を箆笥に衣替えしていますが、割合、いつも同じ洋服に固執します。できるだけ清潔に保つよう、抵抗が少ない時間帯に選択しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	いつも、作り立ての食事を提供しています。揚げ物も多く、案外肉類も皆さん好きです。もやしのひげ取り、時には食器洗いを行って頂いております。月に1回ほどの、出前弁当も楽しみです。	食材の調達とメニューは専門業者に委託しています。調理は職員が行い、出来立ての食事を提供しています。食材の下ごしらえや下膳を手伝う入居者もいます。季節の特別食、誕生会の大きなケーキ、入居者のリクエストで宅配ピザを取るなどメリハリのある食事を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立はしっかりカロリー計算されています。水分量、食事摂取量も毎回チェックして、記録に残しています。体重も毎月チェックしており、急な増減に気をつけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎週訪問歯科があり、義歯の汚れや不具合等、その都度対処しています。毎食後の歯磨きも、スタッフが仕上げに歯間ブラシを用いて念入りに行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中も夜間も、尿意を感じたら皆さん、ご自分でトイレに行かれます。車椅子の方も、要求通りトイレにお連れします。	自立して排泄できるよう支援しています。職員は毎日の排泄パターンを把握しながら、ちょっとしたサインも見逃さず、さりげなく支援し、その日の体調などを見守っています。夜間は必要に応じて居室でのポータブルトイレの使用もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝の体操や自室の掃除、散歩を通してできるだけ身体を動かしていただいています。排便のパターンもほぼ掴んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	皆さん、誘わないとなかなか入浴されないのが、入浴の日は決めています。気分がのらないときは強要は致しません。6人という少人数なので、ゆっくり入浴頂いています。	入浴は週2回以上可能です。浴室には暖房を設置し、湯船のお湯も毎回入れ替えて心地よく入浴できる配慮をしています。職員が介助し安全に入浴できるよう支援しています。1対1の時に昔話などの会話で利用者の思いを聞いています。入居者の気分の良いときに入浴に誘う工夫もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの気分次第で、いつでも自室で過ごすことができます。皆さん好きなきときにベッドで横になっていますが、おやつ時間になると、声掛けせずともリビングに来られます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとり、なるべく漫然と薬を続けないよう、看護師の指導の下、観察を怠らないように支援しています。薬が変わるときは、効能や副作用をノートに書きだして、注意を促します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	皆さん歌がお好きです。コロナ禍で、今年も実現できませんでしたが、地域の民謡大会にお連れしたり、音楽のボランティアを呼んだりして、楽しみごとを大事にしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	歩ける方は、日常的に散歩にお連れしています。車椅子の方も、天気の良い日は散歩に行くことができます。外泊、外出はご家族の協力を得られるよう働きかけていますが、今年も難しいようです。	事業所は丘の上であり尾根沿いに景色の良い平坦なコースを散歩しています。リビングの南側にはウッドデッキがあり、天気の良い日はいすやテーブルを置いて外気浴をしています。事業所の車でドライブなどの外出支援もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	今年も外出の機会が少なかった事は残念です。そろそろ地域への行事の参加等、可能ならばできるだけ出かけたいと思います。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	今年も電話に頼ることが多かったです。お誕生日もご家族は来ることが叶わず、電話でのやり取りでした。ご家族が来ないことへの不満を訴えられたときも電話で対応して頂きました。	/	
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングや各居室の照明や温度、湿度管理は快適に保つよう、職員が気を配っています。壁飾りも季節を感じるができるよう、その都度変えています。入居者と一緒に折り紙や色画用紙等で飾りを作ることも楽しみです。	リビングは南向きで明るく、木のフロアには床暖房が完備され、換気にも配慮しています。壁や天井のクリスマスの飾り付けやクリスマスツリーなど季節感を出す工夫をしています。壁には西柴オールスターズと名付けた入居者の様々な笑顔の写真も多数飾られています。習字の作品なども飾り家庭的な雰囲気になるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1階にリビング、2階に各居室があります。皆さん、好きな時間に自室に行ったり、リビングに降りてきたりと思い思いにお過ごしです。	/	
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室には、その方の大事な小物や写真を飾ることができます。大きな物でなければ、家具も持ち込むことができます。小さな仏壇を置いている方もいらっしゃいます。	居室は2階になり、トップライトで廊下も明るい雰囲気です。居室にはベランダもあり、エアコン、照明、ベッド、洗面台は備え付けです。思い思いに馴染みの家具や調度類などを持ち込み、ゆったり過ごすことができるよう配慮しています。毎朝掃除機で掃除することを日課にしている入居者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	朝の掃除は入居者の方をお願いしています。血圧を測ったら数字を記入していただいたり、食後の下膳もお願いしています。「お気に入りの洋服を盗られて無い」と訴える方には「ただ今、洗濯中」との貼り紙をして納得いただくこともあります。	/	

2021年度

目標達成計画

事業所名 グループホームソラスト西柴

作成日： 2022 年 3 月 11 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	まだ、コロナ禍という事もあって、なかなか外出もままなりません。	状況を見て、自治会に参加。自治体の避難訓練や、さくら茶屋が再開されたら、お昼を頂きたいです。	今年も地元中学校の職業体験が中止となっています。来年度の学校行事予定が組まれる際には、受け入れの姿勢を見せたいと思います。	12ヶ月
2	7	プライバシーに配慮した、虐待の防止の徹底。	皆さんの安全の徹底。転倒等のアクシデントが起きた際の原因を探り、再発防止に努めます。	夜間、リビングで起きた事故は、朝すぐに監視カメラで確認をします。部屋での事故は、ディレクターに報告、了解の元、管理者だけが、ID・PWを入力して確認します。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月